

◎注意事項をよくお読み下さい



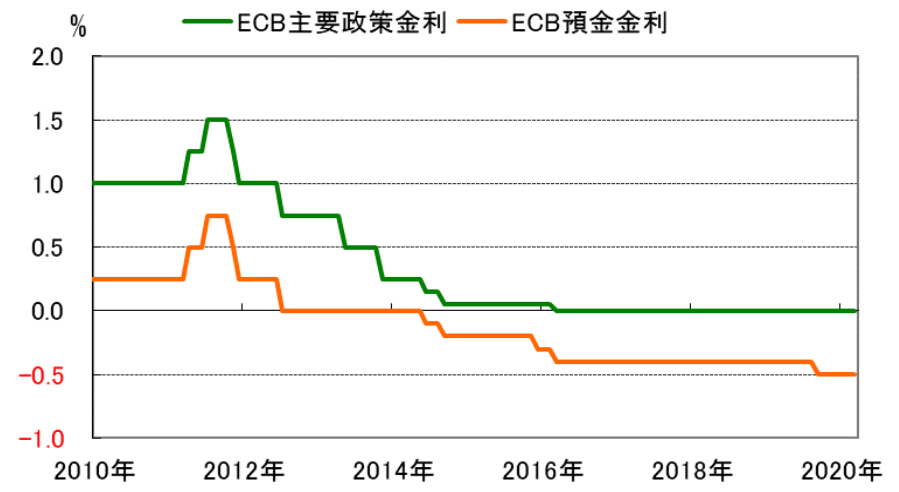
りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

〇 概況

- ◆ ECBは新型肺炎の感染拡大に伴う金融市場の混乱に対応するため、新たな資金供給の枠組みを発表
 - ◆ 一方で政策金利は据え置き、一部更なる利下げや、より踏み込んだ資金供給策を期待していた向きもあり、マーケットの反応は失望的となった
- ✓ 3月12日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、新たに**3つの追加緩和策が発表**された。
 - ① **追加の長期リファイナンスオペ(LTROs)で6月までのつなぎとして一時的に金融システムへの資金供給を実施**
 - ② **長期リファイナンスオペ(TLTRO3)の条件緩和**
 - ③ **2019年11月に再開していた量的緩和政策(QE)について、現状の月200億ユーロに加え、年末まで1200億ユーロを追加**
 - ✓ 一方で**中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%で据え置き。**
 - ✓ またフォワードガイダンス（将来の金融政策方針）についても、「**インフレ目標の実現がしっかりと見通せるまで**」を据え置き。満期を迎えた債券の償還金に関して、長期間の再投資を継続。
 - ✓ ラガルド総裁は会見で、足元イタリアでの新型肺炎の感染拡大を受けイタリア国債と独国債のスプレッドが拡大していることについて、「債券のスプレッド縮小のためにECBが存在するのではない」と発言。
 - ✓ 上記の発言や、FRBやBOEの緊急利下げを受けたECBへの利下げ期待も相応にあったこと、また新たな資金供給策についても不十分との見方から、リスク資産は売られる展開となった。一方でユーロの反応については限定的となった。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（3月時点）】

	2020年	2021年	2022年
実質GDP成長率	+0.8	+1.3	+1.4
12月時点の見通し	+1.1	+1.4	+1.4
HICP(消費者物価)	+1.1	+1.4	+1.6
12月時点の見通し	+1.1	+1.4	+1.6

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。